

海浜域での事故に要注意！！



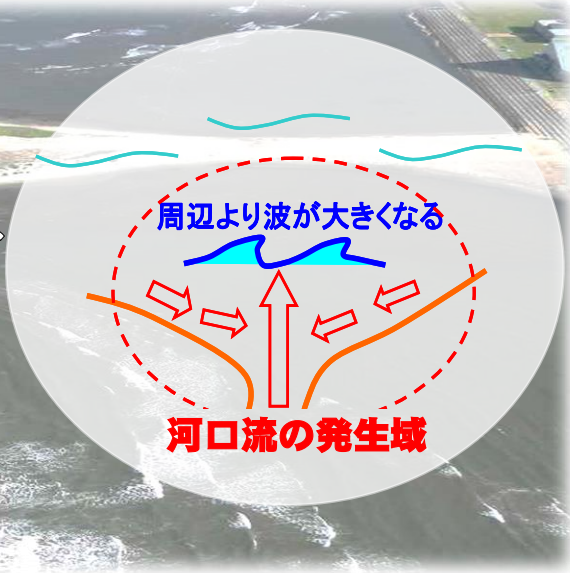
海浜域において、磯波等の影響による浸水、転覆事故が発生しています。

安全に運航するため、波の特性を理解しておきましょう！

磯波とは・・・

波が海岸に近づくとつれて波高が高く急峻な波に変化し、やがて、波の頂上から砕ける現象のことです。

沖合いでは比較的小さな波でも、風向、波向によっては、河口付近で大きな磯波が発生する場合があります。また、風が弱くても遠方からの長周期のうねりが河口に向かっている場合は大きな磯波が発生しやすくなります。



◆事件事例(平成29年10月)

事故者は、船釣りをするため、プレジャーボートA丸に1人で乗船し、定係地を出港したが、事故発生場所付近まで進んだところで、予想以上に波が高かったことから帰港することとし、舵を右に切り、右回頭した際、左舷正横から約1.5メートルの波を受け、一瞬にして転覆したものの。

事故者は、救命胴衣を着用しており、自力で岸まで泳ぎ着いた。

第二管区海上保安本部 海の安全推進室

宮城県塩釜市貞山通3-4-1

(代表) 022-363-0111

(直通) 022-365-9609



マリレよろず

検索

マリレ情報よろず屋URL>>> <http://www.kaiho.mlit.go.jp/02kanku/yorozuya/index.html>

行きはよいよい帰りは怖い

帰港時、磯波は追い波となります。

波乗り状態となると、船が方向不安定に陥り（舵効きが非常に悪くなり）、急にヨーイング（船首が左右に振れること）を起こして横倒しとなることがあります。（ブローチング現象）

追波航行では、波の上り斜面を航行するように、船速を調整しましょう。波速が船速より速い場合は、船速を最微速まで減じ、短時間に波を通過させるようにしましょう。

不用意に波頂や波の下り斜面で船首を回頭させるのは非常に危険です。比較的波長の長い波を選び、大波をやり過ごした直後に回頭するようにしましょう。



波の上り斜面に張り付く



波の下り斜面は減速する

（社）関東小型船安全協会発行「安全運航の手引き－応急編－」から抜粋

危険なのは磯波だけじゃない

湾口・湖口・河口付近、水路の合流地点では、荒天時でなくても、**三角波**が発生するおそれがあります。（三角波とは、複数の波（例えば、沖からの波と陸岸や防波堤で反射した波）が重なり、波高が高く急峻な波となったものです。）

小型船が、急峻な**横波**に遭遇すれば、小さな波高でも転覆のおそれがあります。また、1000回に1回（周期の短い波の場合、約1時間に1回）の確率で通常の2倍の波高が発生します。

波に船首を立てるように舵を取る、磯波や三角波が発生する海域を避けるなど、適時適切な操船をお願いします。



安全運航を心がけましょう！！



マリレ情報よろず屋
～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト
（沿岸域情報提供システム）

